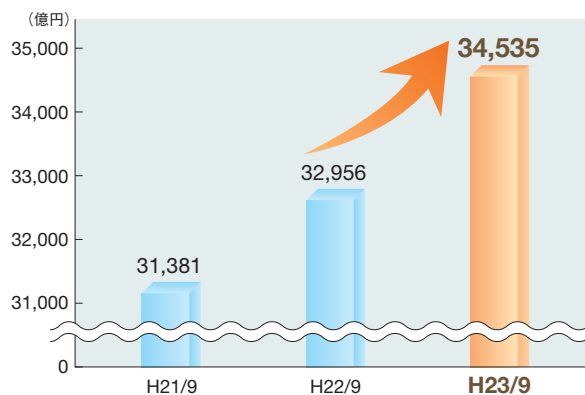


預金残高

年間増加率4.7%!

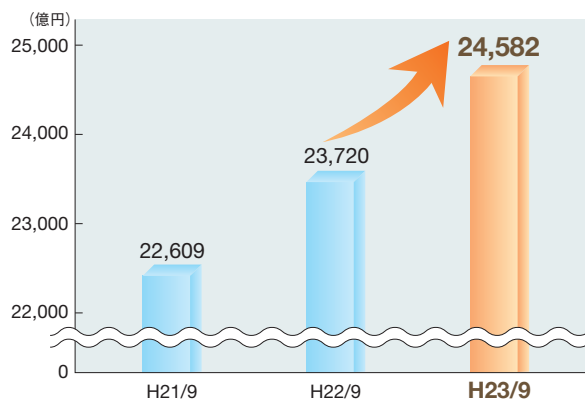
店舗リニューアルや、先進的なATMおよび貸金庫サービスがお客様よりご支持をいただいております。預金残高は前年同期比1,578億円増加し、3兆4,535億円(年間増加率4.7%)となりました。



貸出金残高

年間増加率3.6%!

県内の中小企業向け貸出や、住宅ローンを中心とする個人向け貸出の推進に積極的に取組んだ結果、貸出金残高は前年同期比861億円増加し、2兆4,582億円(年間増加率3.6%)となりました。

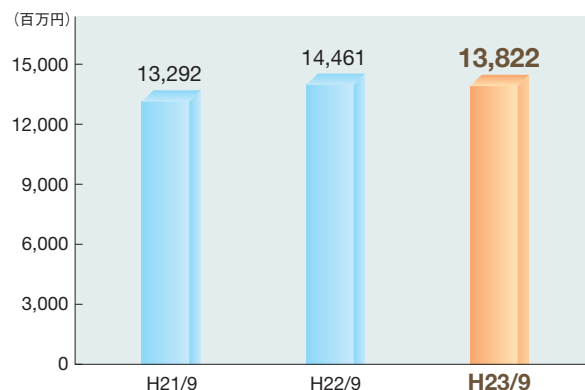


コア業務純益

安定した収益力!

預金、貸出金残高が順調に伸び、資金利益が堅調に推移したこと等から、銀行本来の収益力を示すコア業務純益は、安定した業績となっています。

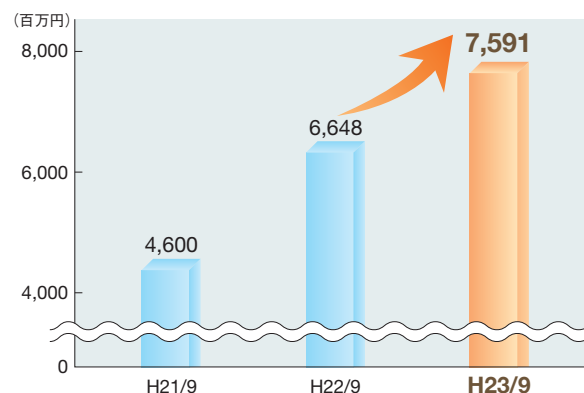
コア業務純益 = 業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額
- 国債等債券損益



中間純利益

過去最高を更新!

中間純利益は、前年同期を9億円上回る75億円となり、中間期としては過去最高益となりました。

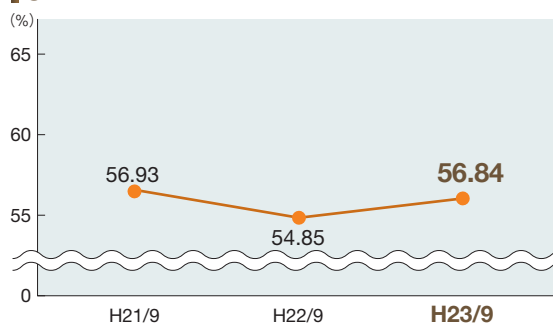


OHR・経費率

効率経営!

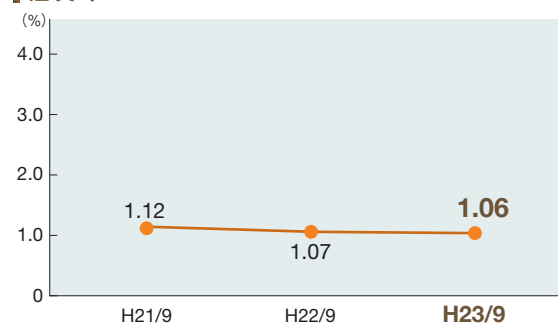
OHRおよび経費率は、大変低くなっており効率性の高さを示しています。

OHR



$$\text{OHR} = \frac{\text{経費 (臨時的経費を除く)}}{\text{コア業務粗利益}}$$

経費率



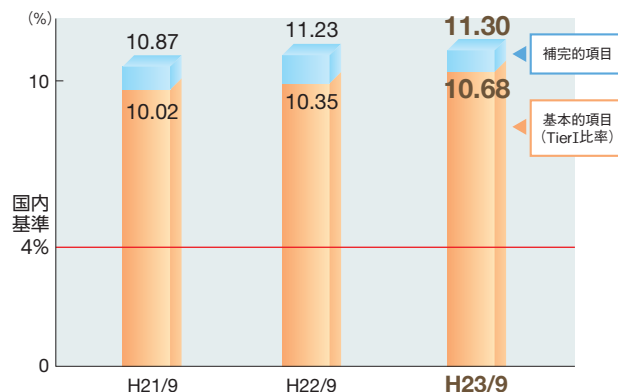
$$\text{経費率} = \frac{\text{経費 (臨時的経費を除く)}}{\text{預金・譲渡性預金の期中平均残高}}$$

※OHRおよび経費率は、数値が小さいほど効率性が高いことを示します。

自己資本比率

基準をはるかに上回る高水準!

自己資本比率は、11.30%であり、拠点を国内に限っている銀行の基準である4%をはるかに上回っています。また、基本的項目(TierI比率)は10.68%であり、資本の質は極めて高い水準を維持しています。



基本的項目とは?

資本金・剰余金などの、本来の自己資本のこと。

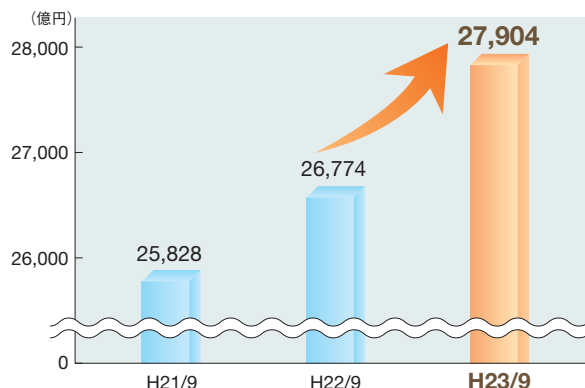
補完的項目とは?

一般貸倒引当金・土地の含み益の一部など。

個人預金残高

年間増加率4.2%!

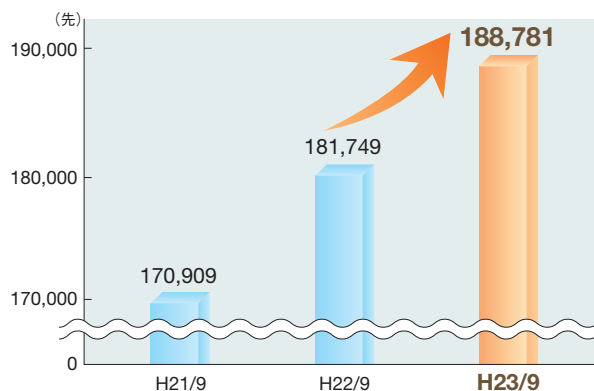
年金受取指定先数および給与振込指定先数が順調に増加したことにより、個人預金残高は前年同期比1,129億円増加し、2兆7,904億円(年間増加率4.2%)となりました。



年金受取指定先数

年間で7,032先増加!

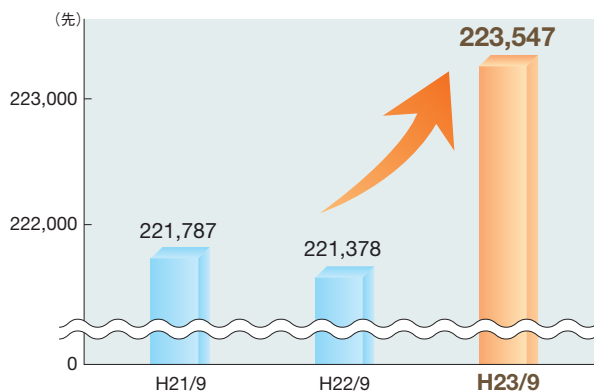
社会保険労務士による個別年金相談会や年金セミナーを開催し、複雑な年金制度の説明や年金請求書作成等のサービスなどが、ご好評をいただいています。年金受取指定先数は年間で7,032先増加(年間増加率3.8%)しました。



給与振込指定先数

年間で2,169先増加!

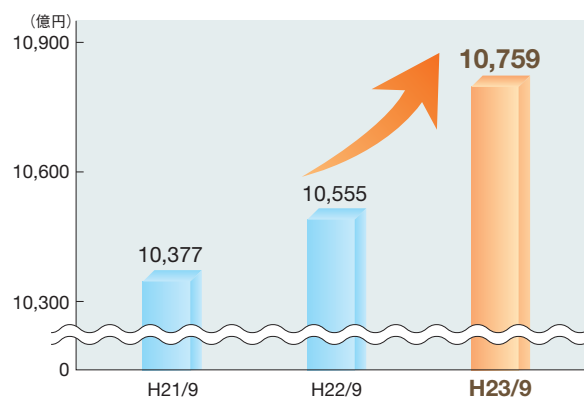
住宅ローンなどをご利用いただいているお客さまを中心に給与振込のご指定をいただいています。また、若年層の方々に向けた、給与振込のキャンペーンも実施しています。給与振込指定先数は年間で2,169先増加(年間増加率0.9%)しました。



中小企業向け貸出金残高

年間増加率1.9%!

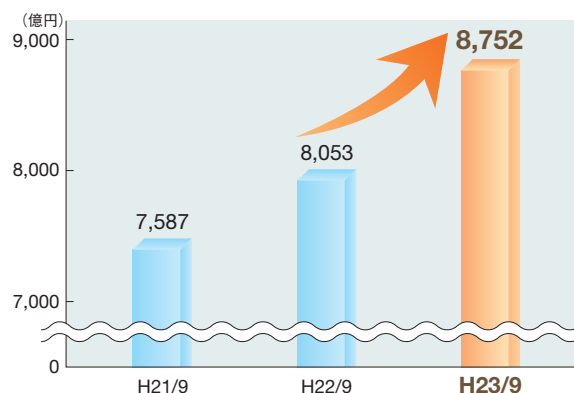
中小企業のお客さまを中心に千葉県の資金循環の円滑化に取り組んだ結果、残高は前年同期比203億円増加し、1兆759億円(年間増加率1.9%)となりました。



住宅ローン残高

年間増加率8.6%!

お客さまの住宅資金ニーズ(新築、借換え、リフォーム等)に積極的にお応えした結果、住宅ローン残高は前年同期比699億円増加し、8,752億円(年間増加率8.6%)となりました。



金融再生法開示債権・不良債権比率

高い健全性を維持!

金融再生法開示債権(単体)は前年同期比90億円増加し、472億円となり、不良債権比率は前年同期比0.31%増加し、1.90%となりました。法人および個人のお客さまの経営支援・返済相談に積極的に取り組んだ結果、貸出資産の高い健全性を維持しています。

